京城新報

[illegible]明治四十四年 紀元二千五百七十一年
定價 一枚金二錢 一ヶ月前金三十錢 三ヶ月前金九十錢 六ヶ月前金[illegible]
廣告料 五號活字十七字詰一行[illegible]
發行兼編輯人 [illegible]
印刷人 [illegible]
發行所 京城新報社
仁川支局 仁川本町三丁目
東京支局 東京市京橋區南佐柄木町七番地

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

●齒の養生法

▽總督府醫院村上齒科部長談

甘い物は齒に惡い――と云ふ事は私共が申さなくとも皆さん既に〳〵御承知で御座いますが彼の日露戰爭の際從軍して居りました折軍司令部の命令で齒科患者の嗜好別を統計に取つて見ましたが齒科患者の兵士が九十人も百人も武裝をして隊を組んで參りますので之等の患者を正列させまして甘黨は左の手を辛黨は右の手を上ぐる樣にして人員を調べて見ますると百名中左手が七十名右手が二十名殘りの十名は兩手を上げて居るので私は何の事かと兩手の兵に聞て見ますと彼等は……私等は兩手利の方ですと……云つて兩手を振り上げて居るので日露戰役中非常に面白い統計を得ましたので御座います

八十歲以上に成つて齒が生へる事がある……之は第三期齒牙發生と申しまして至て極々稀な事で御座いますが私は筑後の柳河で八十七歲の高齡者へ下顎の左側に一本の臼齒が生へたのを見た事が御座います今をさる約二年前信濃國の或片田舍に九十六歲の婆さんへ上下揃つて玉の樣な齒が數本生へたと云ふ記事が當時の新聞へ記載されたので私は東京朝日の記者と遙々其御婆さんの處へ參りまして早速口の中を診察致しましたが上下顎共に殆ど一本も齒は御座いません僅か殘て居る齒根に齒石が溜つてそれが段々大きくなつて齒が生へた樣に見へたので齒でない本統の御話しで有つたので當時東京の朝日や長野の各新聞のはなしの種と成りました終りに臨んで誤解せられたる齒科衞生に就て一寸御話申度いと存じます世間では金を口の中に入て置けば熱を去つて口腔病や齲齒を患はないと云ふので無暗に金の義齒を入て見たり金を充塡したりする人が御座いますが是は只に不經濟な話で又々全くの誤解で金は口腔病や熱を去るの何のと云ふ事には少しも効は御座いません唯だ口腔內で他金屬の樣に變化せない點を以て齒科では賞用せらるゝと云ふまでの事で例へば齒科の技術に金を使用致しますに致しましても可成的外に見へる處には余り金を使用せない事に務めて居りますので御座いますが併し實行は仲々六ヶ敷くて昔から禍は口より出で病は口より入ると云ふ諺にも有る通り口と申處は隨分厄介な否否誠に大切な處で御座います

外事一束

▲秘密會を開きて波斯議會露の最終に同意し主權を放棄するが如きことは▲威嚇如何に甚きも爲さずと決し即ち露に回答期限延期を乞ふも露拒絕す

▲露兵撤退を期する爲め露に謝罪せよとの英の忠告に對し波斯英の不信を

▲攻擊すること頗る無遠慮を極め其の英國人士の感情を害すること甚大なり

▲同盟罷業を企てたる英國鐵道從業員等政府委員の提議を承諾するに決す

▲英國皇帝皇后兩陛下二日孟買に御着あり皇禮砲四邊に轟き奉迎盛大なり

▲瑞西に遊歷せる露外相佛外相に對し公式會見を申込み五日巴里に會見す

▲英佛兩國一定の時期を劃し兵力を以て相援助せんとの秘約在さ流說盛也

▲貿易(十一月號) 日本貿易協會創立二十六週年の紀念號として通常より紙數を倍加し水町博士の『數字上より觀たる我財政及び經濟』落合在露大使館參事官の『露西亞の財政狀態』は共にこれ出色の文字にして貿易界の名士の一言又寸鐵的好隣論淘外事論は例によつて異彩を放てり附錄中濟勳亂記は詳密を極む(一冊十錢東京市京橋區宗十郎町日本貿易協會)

▲外交時報(十四卷十三號) 本誌揭載の要目は有賀博士の『革命軍獨立の承認』稻原勢治氏の『加奈陀の政變を何とか觀る』茅原華山氏の『日米兩國の天職』メンデルゾーン氏の『米國政界の分野』等なり(一冊二十錢東京市赤坂區靑山南町外交時報社)

文苑

●二人の名　石井竹馬

をそ吹きのコスモス並ぶ病院の廊下は長がし秋寒の朝

紅の衣を着たる乙女子に物云ふも憂き秋の路かな

一の谷二の谷越ゐて樵夫唄長がく短かく、其影よ

中幕の小春を思ひ家に歸へれば子の寢姿のあわれとも見ゆ。

丈け高きポプラの裏の五日月倦める吾には寒き皮肉よ。

名の知れぬ酒に醉ひてやたわれ女のうたふ戀唄此國悲し、

黑き煙と白き烟吐く烟突の並べるを見て秋の淋しき、

岩に語る女波男波よ永遠に二人の名をば忘れざらまし、

明日と云ふ一日を思ふ病める身は此日を何に滿たし過ごさむ、

新刊紹介

▲青年之友(十二月號) 劍道柔道界の機關雜誌として此方面に力を盡しつゝある本誌は愈々斯界の注目を惹く可き材料を網羅し盡せり苟も武士道を以て任ずる我青年たるものは必らず一讀すべきものなるべしと信ず(一冊十錢東京市本鄉區東片町公論社)

▲家庭之友(十二月の卷) 眞摯なる家庭の相談相手を以て任ずる本誌は號を追ひて益々其本領を發揮し四十四年掉尾の大活躍頗る見る可きものあり揭載の記事趣味と實益を兼ね備へ家庭の好伴侶たるに背かず(一部十一錢五厘東京市本鄉區東片町新公論社)



新年和歌募集

勅題「松上鶴」　選者九皐館去留

一、一人にて何首にても宜敷、用紙用箋は御隨意の事。但投詠者は住所氏名御明記の事

一、締切期限來る十二月二十日

一、發表は四十五年一月元旦の本紙上を以てす

右は例年の通り勅題和歌募集致候に付同好の御方は奮つて御投詠あらんことを

京城新報編輯局

梁川庄八

小金井蘆洲演

第四十九回

北浦齋藤山田の三人は烈火の如くに立腹した 新『默れ……こは怪しからぬ一言なり、斯くなる上は其方を此場に斬落しても我々共の云條を貫かんければ相成らん、浪人の分際で不埒千萬』と三人均しく刀の柄に手を掛けた、庄八是を見て 庄『斯くまで理を盡してお諫め致すに聞入ぬとは是非もなし、拙者を斬捨るとは虎の顋に戯るゝ鼠に等しい片腹痛笑止千萬』新『鼠とは何事ぞ……虎の腕前見物致そう』庄『見ようとならば見せよう』三人『何を不埒な浪人奴失れ斬捨てろ』と北浦新吾逸早く一刀拔擧に、庄八望んで斬付たり、庄八は腰の刀に手も掛けず、固より柔術は天神眞揚流無双の名人であるから、飜しく斬込來る一刀を引外し、利腕取てズンドウと投付ければ、新吾は神木の銀杏の根方に腰を打ち立つ事も敵はず、後ろから齋藤源左衛門無禮者と斬付るを体を換はした者だから、前へヒョロ〳〵と出て來る奴を、ヤッと當た雷風の活、ウンと氣絶をした、横合から山田左司馬が斬下して來たのを、是又体を換して前へ來るを、片足揚げて睾丸を蹴る、ウーンと氣を失つた、彼處に四五人此處に六七人立て見て居た見物の人々は驚いた 甲『ヤア驚いた腕前の御武家様ですな、偉い者ですな、御城中の鴉組の惡い若侍迚も敵うまいと思て居ましたら、何の苦もなく無下で三人を氣絶をさせて了つたのは豪氣ですな』乙『餘程出來る方ですよ』丙『何うするでしょう、だが御城下本町の立花屋のお女房さんとお嫁さんは喜こんで逃げて行きましたね、オヤ〳〵彼のお浪人様は何かなさいますよ』と見て居る內に梁川は三人氣絶をして居るのを一つ處へ寄せ、呵々と打笑ひ 庄『扨々鈍い奴ども腕前の者共だな、チ少し手强い奴と思の外、いや早論に絕へたる未熟な佐者、併し此儘に捨置けば後來如何なる振舞をなすかも知れぬ、事の序に懲してやろう』と三人の腰の者を取上げて、拔刀を鞘に納め大小を一つにして提緒にてキリ〳〵と卷いて、是を片手に提げて以前の掛茶屋へ這入て來た、婆ァに向ひ 庄『こりや婆ァ仔細あつて此者共の腰の物は持て歸る、就ては今に息を吹返して大小がないと騷ぎ出したら、最前の浪人が預かつて行つたと云へ、武士が丸腰では城中へは歸れまいから、取りにこい然うしたら返してやる、城下連雀町上州屋藤兵衛方へ永らく滯在の侍だと云へ』婆『ヘエー旦那樣彼の乘達は死んだのではございませんか』庄『イヤ死んだのではない、余り醉つて居るから晝寢をさして置いたのだ。今に目が醒める』婆『ヘエー左樣でございますか、此衆達は御城下で札付の惡漢で鴉組と仇名を付けられて居りまして、三人も五人も揃つて步行いて、往來の邪魔をして人が腰の物に障つたとか、足を踏んだとか、樣々の難題を云掛けて終には對手方に酒を振舞わせたり、お金を取たりして夫を手柄顏にして居る連中で、何か事があると夫をほじり立ると云所から、鴉組と異名を取て居るのでございます、今日は旦那様にお灸を据へられましたから、是で些しは懲りましたろう』庄『アー左うか……鴉組などゝ云ふ異名を付けられて恥ぢざる奴原、十分後來を戒めてやらぬと第一此者等の身が立たぬわい、婆ァ大きに厄介になつた、茶代を是へ置くぞ』婆『有難存じます』大小六本を束にした先へ明いた瓢簞を結びつけて、夫を擔いで上州屋へ歸つて來た 庄『藤兵衛今歸つた』藤『オヤ大層御刀をた睹めになりましたな』庄『イヤ買つて來たのでおやあないのだ』藤『何う遊ばしたのでする』庄『一時預かつて取上げて來たのだ』藤『ヘエー』『實は是れ〳〵斯う云ふ次第だ、と一伍一什の話を致しますと 藤『夫は宜い氣味でございましたな、今に追付て參るでございませうから』庄『ウチヲ油を取て遣つて下さいまし』庄『來たらば直ぐに座敷へ通してくれ』藤『畏こまりました』と藤兵衛手を拍て悅んで居ると、此處は氣絶をして居る三人、人の癇氣を頭痛に病む彌次馬連中彼處此處で立佇んで見て居ると、漸く立て漸く息を吹返して來た、見物はヤア一息を吹返して來た、と見て居る內 新『ウーン』キョロ〳〵四邊を見廻して 齋『驚いたな……彼れは何んだ凡人ではないな』齋『何でも我々が余り腕前が出來る者だから魔が差したのだ』山『彼れは慥かに天狗に違ひないぜ』新『酷い目に會つたなあ』見物人は吹出した



東京電報

▲行政整理 現內閣は明後年度に於て破天荒の行政整理を斷行する筈にて先づ第一着手として繁文縟禮を廢止する爲め當座限りのものは成可く鉛筆にて間に合せ大に措類の簡捷を計りと同時に人員の減少を計る筈にて昨今次官會議に於て協議し居れり

▲南京滿人街大火 南京の滿洲人市街は二日より火災起り三日に至るも尙止まず市街全部廢滅せりとの公報達せり

▲孫黄の會合地 孫逸仙と黄興とは上海に於て會合せんとす

▲英帝孟買御着 英國皇帝陛下は印度に於ても戴冠式を行はるべく孟買に御着あり奉迎盛觀を極む

▲暹羅の戴冠式 暹羅皇帝の戴冠式にメナム河の水上行列は壯觀を極め御名代伏見宮殿下にも御參加あり歡迎盛なり

北京特電

▲借款成立す 二國借款別約たりし六千萬法の借款は上奏裁可を得て調印を終れり

▲革軍本營破壞 武昌の革命軍總司令部は猛烈なる官軍の砲火に破壞せられ城外に移せり

上海電報

▲革軍首領集會 革命黨の首領黄興、伍廷芳、程德全を始め多數の黨員等は道張園に集合し公債募集の件を協議したり同情者よりは多數の寄附金醵出せられたり

▲武昌援軍派遣 武昌籠城の革軍增援のため四千の軍隊は當地より九江に派遣せられ又四千の江西軍は湖江し軍艦二十七隻の內一隻は彈藥を滿載して漢口に向ふ

▲黄興黎を勵ます 黄興は黎元洪に向け武昌を死守し追て漢陽を恢復すべく督勵し又鎭江軍政府は一週間內に一萬の兵を湖北に向け進發せしむべき旨黎元洪に打電せり

▲援軍武昌入城 漢口よりの電報によれば革軍を援くべき江西兵三千大砲二十門を引き武昌に到着直ちに入城せり

▲南京戰士に賞與 南京攻擊戰の將校兵士を振恤すべく黄興及び宋教仁は上海より十萬兩を南京に送附せり

▲各省代表者決議 四日當地に各省代表者會議を開き黄興を大元帥に黎元洪を副元帥に任命し且つ孫逸仙歸着迄黄興を臨時大統領となし南京に民國政府を設置することを決議す

▲黎領事仲裁を斥く 黎元洪は南京陷落の報に意を强うし武昌固守の決意を爲し英露兩國領事の調停仲裁を斥けたり

▲張勳所在判明 張勳は徐州に逃れたり因に徐州は浦口の西北にあり

雜錄

●漁業令實施期 漁業取締規則の發布あり之が實施[illegible]は追て定めらるべき事となり居た[illegible]付明年一月一日より施行の豫定な[illegible]稅制等未だ完備せざる爲め多少遲[illegible]見る可しと尙漁業令中改正を要し[illegible]漁業組合法に付目下調査制定中な[illegible]

●朝鮮鐵道運輸收入 十一月中に於ける朝鮮鐵道貨客總收[illegible]四十二萬六千五百九十四圓にして之を前年度同期に比すれば三千八[illegible]九圓の增收を見たるが尙之れを各[illegible]客收入別に記すれば左の如し

京釜線	客車收入	十四萬四百九十[illegible]
	貨車收入	十三萬六千七[illegible]
京義線	同	六萬〇三百十五圓
	同	八萬二千百十九圓
湖南線	同	四千二百十圓
	同	一千四百七十圓
京元線	同	一千五百八十二圓
	同	三百三十二圓

●滿鐵の收入 十一月中の滿鐵運輸收入は其總計百四[illegible]七千四百九十四圓餘にして一日[illegible]萬八千九百十九圓餘に當前年同[illegible]し實に五千百十九圓餘の增加と[illegible]り今左に貨客總收入に就き昨年[illegible]減を對照すべし

	本年十一月(安奉線を含む)	昨年比
乘客人員	二八〇、六七一人	增 二九[illegible]
客車收入	三九九、七七六圓	增 三三[illegible]
貨物噸數	三六九、九九二屯	增 一〇[illegible]
貨車收入	一、〇〇九、三三七圓	增 一〇九[illegible]
雜收入	六一、七二九圓	增 四[illegible]
計	一、四六七、四九四圓	增 一五三[illegible]

●內地人の農事經營 各道に於ける內地人農事經營者を調[illegible]に人員二千二百五十四人、投資金[illegible]三百七十三萬六千五百六十七圓、所[illegible]地面積、田、四萬二千五百八十[illegible]反歩畑二萬六千七百二十七町歩[illegible]原野一萬三千八百六十七町二反[illegible]他三千七百七十二町七反歩、合[illegible]六千九百五十二町三反歩にして此[illegible]負一萬圓以上の者、百七十二人[illegible]額九百五十六萬四千七百八十七圓[illegible]有地合計五萬八千九百四十三町六[illegible]

[illegible]

●安東縣不穩 [illegible]

●移入超過と半島の經濟(三) [illegible]

[illegible]の鮮人間の金融一時に[illegible]品の購入をなし其爲[illegible]となりし結果金融の逼[illegible]たることは爭はれぬ事實[illegible]此頃鮮人の奢侈品を買[illegible]の數の殖へたのを見て[illegible]奢侈に傾いて來たかゝ[illegible]に半島經濟界の前途悲[illegible]ありますと云々

●漢城銀行支配人 [illegible]

●狩獵免許總數 十一月三十日[illegible]で狩獵免許を受けたる[illegible]四千二百十八人外國[illegible]外國人二十五名京畿道[illegible]日人四百七十二人外[illegible]狩獵の盛なる推て知る

●通關事務廢休照會 京[illegible]所にては例年の如く[illegible]京城各商店聯合大賣出[illegible]內地よりの移入雜貨品[illegible]至るより十一月下旬京[illegible]張所に對し一般商人の[illegible]り末日迄日曜大祭日[illegible]たき旨交涉したりと

●民團出張所移轉 京城民[illegible]所は事務の繁多に赴く[illegible]告げ到底現在のまゝに[illegible]さるより務て他に移轉[illegible]小林長兵衛氏所有龍山[illegible]病院を買收せんとし[illegible]たるに略ぼ相談纏りた[illegible]官の民會に附議する筈[illegible]通りに可決すべしとの

●商工調査幹事會流會 商工調[illegible]日夜開會の答なりしも[illegible]滿たざりしため流會と[illegible]の本會議迄は見合はす

●美術品製作所 近況 漢[illegible]の現況に就き聞く所に[illegible]場は之れを織造、染色、[illegible]錢工、製鞣、石工、金銀[illegible]ち此他織造部に附隨す[illegible]其の規模小なり各部の[illegible]部の外は悉く內地人に[illegible]を通じて二百名の鮮人[illegible]各部面に於ける朝鮮第[illegible]にして主任の指揮に從[illegible]は主として朝鮮人にて[illegible]事し其工作の如き大に[illegible]り而して同所製作品の[illegible]して少數內地人あるが[illegible]其の製作品の如き亦た[illegible]技するに努めつゝあれ[illegible]外客來京の際には必ず[illegible]多數の製作品を購入せ[illegible]は昨今にては多少其の製作方針を改めて內地人の趣味にも適合せしめんことを計り例へば織造部に於ては其の原料染色料等悉く朝鮮在來のものを使用すれど又た內地人向たる織物の製織を試むる等の如く尙ほ各部に於ても種々內地人向の製作品を出さんと考慮しつゝありと又た內地人觀光團等に最も多く歡迎せらるゝは三圓乃至六七圓の神仙爐、製氈、織物類就中[illegible]製夏服地等なるが製氈は原料と工賃の低廉なる爲め同質のものにても內地に於ける約半額の價額を以て賣捌き居るを以て內地人間に好評ありと

●司法官吏の交迭 公州地方裁判所長柳澤佐五郎氏は大邱地方裁判所長に咸興地方裁判所長岩本以明氏は公州地方裁判所長に判事勅使河原健之助氏は咸興地方裁判所長に京城區裁判所檢事秋塲格太郎氏は平壤控訴院檢事に京城地方裁判所檢事境長三郎氏は京城區裁判所檢事兼任に夫々補せられたり

●支那動亂と鮮人 影響 十一月三十日仁川府尹の度支部に報告中淸國事變の鮮人に及ぼす影響を記せんに仁川港鮮人中布木商は在仁川淸商と絹布綿布其他の織物類の取引關係最も厚く獨り當港に限らず黄海道忠清道及平壤等に亘り其關係頗る廣大なり是等は凡て信用取引により淸曆節期を以て締切勘定をなすを例とせり然るに十月以降淸國動亂の結果中淸よりの輸入貨物減退となり商品の手薄と資金の必要となり商品の値上と賣掛金の回收を促がし來り同時に信用取引は可成之を避けんとするの傾向を生じ偶々一部信用取引をなさむとするも現金買に比し六步乃至一割(品に依りては夫れ以上)の高値なれば錙銖の利を爭ふ鮮商等に取りては寧ろ現金買をなすの勝れるに加かず又淸商に於ても此際現金取引には能ふ限りの便宜を謀りつゝあるに依り永年信用取引をなしたる鮮人は俄に資金の調達に苦心せざる可らざる境遇に立至り一面に於ては商品の騰貴に伴ひ客足の數を減じ漸く買鈍るものゝ如く此儘繼續するに於ては少からぬ打擊を蒙るべし今九月と十一月に於ける卸賣値段を比較對照すれば左の如し

品種	九月值段	十一月值段	差額
絹織物各種平均疋	四、五〇〇	五、五〇〇	一、〇〇〇增
金巾 同 上	七、一五〇	七、四〇〇	二五〇
同 中	六、〇〇〇	六、二〇〇	二〇〇
同 下	五、三五〇	五、六〇〇	二五〇 增

又鮮人消費の食鹽は北淸方面より每年戎克にて輸入するを常とし例年十月より十一月迄は漬物の季節なるにより每年入最も多き時機なるに本年は淸國事變の結果例年より戎克の入港少く尤も終航に近づき入港せざる事となりしより甚しき減額には非ざるも猶明年二月醬油製造の時期に至らば愈々拂底することを免れざるにより九月まで六斗俵六十錢のもの十一月に至り一圓二十錢即ち倍額の格價となり少からず苦痛を與へたる固より當地には多量の再製鹽あるを以て今後の供給には差支なきも當地附近の鮮人は從來凡て支那鹽を其儘使用し再製鹽を購入するものは殆んど皆無と云ふも不可なきなり猶狐狸の皮は每年淸國向輸出品として當港より多數積み出すものなるに本年は一般に之に對する商談なく時機尙早き爲然るか將く疑を存すと

●滿鮮巡遊乘車賃 鐵道院にては內地鐵道及大阪商船、南滿洲鐵道、朝鮮鐵道を經由する滿鮮巡遊乘車券賃金を改正し七日より實施す

▲門司又は下關にて連絡船に接續する場合の賃金

	一等	二等	三等
新橋	八七、四〇	五〇、三〇	三二、〇〇
名古屋	八〇、七〇	四六、八〇	二九、八〇
大阪	七六、六〇	四五、〇〇	二八、六〇
神戸	七七、七〇	四四、七〇	二八、四〇
廣島	七二、三〇	四一、三〇	二六、一〇
博多	六八、六〇	三八、九〇	二四、五〇
長崎	七三、三〇	四一、八〇	二四、四〇
熊本	七一、八〇	四〇、九〇	二五、八〇
鹿兒島	七五、六〇	四三、一〇	二七、三〇
下關	六六、〇〇	三七、四〇	二三、五〇
門司	六五、九〇	三七、三〇	二三、四〇

▲神戸に於て連絡船に接續する場合

	一等	二等	三等
新橋	八七、五〇	五〇、五〇	三二、八〇
名古屋	八一、三〇	四六、八〇	二九、三〇
大阪	七六、九〇	四四、三〇	二七、六〇

●松井參事官來京 淸國動亂に關し重要任務を帶び淸國に出張を命ぜられたる外務省勅任參事官松井慶四郎氏は六日午後八時十分南大門着入京す

●總督府醫院精神病科 今回濟生院の事業として精神病院を置く事となり明年五六月頃には五十人を收容すべき病室を總督府醫院接續地に新築し其業務は同醫院に囑託せらる事となりしに付準備の爲醫學士水津濟次氏着任當分の內醫院內科の一部として應急の設備を施し六日より精神病者の治療に從事することゝなれりといふ

●湖南囑望地 沿線 最近湖南鐵道線を視察し歸來の某實業家の語る所によれば論山(前々號紙上に此地の有望なるを報せり)より鐵路江景に至る江景は湖南線現時の終點にして內地人二百餘人居住し京城より百四十二哩大田より三十七哩七の距離にあり現時にては流石論山よりも物貨集散多く隨つて活氣を帶びたり江景より群山迄石油發動艇の往復するあり本年中には江景群山間の建築列車開通を見本列車の開通は來年二三月の豫定にして目下は東よりは江景より裡里迄西よりは群山より十哩余建築列車を通す湖南線敷設豫定は江景より龍安、黄登を經て裡里に至る黄登は咸悅(郡衙所在地)に近く附近物資の集散塲たり裡里は本線群山への鐵路分岐點にして今後有望の箇所たり目下は石油發動艇ありて群山との錦江往來をなし全州平野を始め萬頃江流域の物資を集散せり全州より廬嶺山を越へ四街里に出づ廬嶺山は有名なる難所にして四十五鎖約半哩の大隧道穿たるゝ筈にして今後の湖南線本線中最難工事たり附近に小西行長の戰跡等嚴城跡あり鐵道は四街里より月坪を經仙安を過ぎ全羅南道羅州郡の松亭里を通り羅州に出づる事と略決定しをれり羅州の停車塲は邑より約一里榮山江數丁を距てゝ榮山浦と相對する地點に豫定せらる由羅州より鐵路は小隧道をば過ぎ古幕院、鶴橋、夢灘津、三鄕里、仟城里を經て木浦に達する豫定なり而して鶴橋は咸平の平野を控へ古幕院は羅州西方の平原に通し共に將來囑望の地なり以上の如く湖南線が豫定通り松亭里を通過すれば松亭里は湖南全線中最樞要の要衝たるべしと思はる何となれば潭陽、光州、羅州、綾州の各方面より物資集散し又貨物輸送上の樞路に位しをればなり殊に全羅南道の首都たる光州へは陸路三里を距つるのみ終に附記すべきは全南長城方面の人々は一日も早く滊車の開通を見て京仁方面の商人が手を此邊に伸さんことを希望しをれりと云々

●水津醫學士の經歷 今回總督府醫院精神病科擔當の醫學士水津濟次氏は京都大學卒業後東京大學精神病學教室に在職兼て巢鴨病院に於て實地を研究したる人なりと

●狩獵規則の違反者 十一月三十日迄に狩獵規則の違犯者は全道を通して二十五件なりといふ

●柴田技師鬱島視察 入京中の三井山林課長柴田榮吉氏は六日鬱島を視察し尙兩三日滯京の由

●秋塲檢事送別會 秋塲檢事は今回平壤控訴院へ轉任につき來る十日花月に於て送別會を開く

●古城民長の引籠 古城京城民長は微恙のため一兩日前より欠勤昨今引籠中

●牧山耕藏氏の歸城 東上中なりし日本電報通信京城支局長牧山耕藏氏は六日夜歸城せり

●生田書記官出張 生田書記官は國有未墾地調査狀況視察の爲め京畿、黄海兩道へ六日朝出張せり

●釜山郵便局の移轉 兼て新築工事中なりし釜山郵便局は新築落成したるを以て來る十日移轉し十一日より事務を掌る由

●島根縣人會開催 來る八日京城ホテルに於て島根縣人會を開く由

公人私人

▲松井慶四郎(外務省參事官) 六日夜入京

▲牧山耕藏(日本電報) 六日夜歸京

▲柳原佐五郎(公州地方裁判所長判事) 五日不知火へ

▲阿部秀太郎(鮮興支店支配人) 五日釜山行

▲小原彥太郎(營口水道技師) 五日京城ホテルへ

▲京城手形交換高▼

日	金高	枚數
十二月六日	二五、三六一、六三〇	九二三

▲治外法權▼

支那の革命亂に就て、我政府が英露兩國政府と共に、居中調停の勞を採ることになつたとの事だが、モシ本當なら結構な事だ、今や北軍は漢陽を落し、南軍は南京を落し、之れで兩方の強い事が判つて、顏だけはマッ立つた譯だ、ソコでコーイラが丁度仲人にマカセ時だ▲尤も日英露三國政府の忠言を排して、ドコドコ迄も、ヤルと云ふなら、ソレは勝手であらうが、若しツウなつたら、支那の未來に光明は絕無だ▲過日本紙が發表した三審裁判制度破壞說排斥の社說に對し、其後種々の投書が來た、而して其投書中の一に曰く、今の司法部や機關は尨大に失し從つて多くの經費を要す故に經費節減の意味を以て二審制を採用せざるべからずと▲之を以て見ると論者の三審制破壞、二審制採用說は經費節減から出て居るやうだ、併し考へても見なさい、裁判所の十や十五減らして經費が幾ら違ふか、況んや僅かの節減の爲に列國の不安を買ひ、且つ一般人民に不安を感せしむる樣では、國家は差引損をせねばならぬ▲移輸入超過に對する竹山第一支配人の所見は最も公平で最も穩健なものだ、彼曰く龍山に於ける總督及軍司令官官邸の如き移入超過の導因となつては居れど決して移出奬勵の源因とはならずと▲現時移入超過の源因を仔細に調べて見ると移入物の其多くは龍山官邸の類似品だ最も樂觀論者が記者の悲觀說を打破しやうとするなら、移輸入超過品の生產的なることを品名と數字とによつて明かに示されたい▲南大門外街路の險惡に付いて市民が受ける危險と不便とは非常なもの、內部土木課とやらは一體神經か▲まづ第一に此結氷期に當つて工事を始めたのが大間違だ、氷つては無理に解け、解けては氷る今日此頃、工事を續ければ、工事其物が完全に出來ぬのみならず、工事費も餘計に要る▲幾ら政府の仕事だとて見て居られぬほどに馬鹿馬鹿しい、不如結氷期の今日は直ちに中止して來春解氷の時を待ち再び工事に手を着くること可也。



京城市に生神樣

▽御利益を蒙つた玉江女郎 新町遊廓第一樓本店に玉江と云ふ女郎あり夫が又た職を張る位でムるから頗るの辣腕家なりしことも知るにカタからざる岩本君が金澤旅館止宿中の請負業兼金貸業佐藤氏を案内して同樓に登樓した折馴れも玉江の馴染客なりしに人の惡い岩本君密に佐藤君を呪ふて失敗した一條は當時報道したるが恰も其當夜は玉江の情人〇〇局の吉村が十一時頃から來る筈になつて居たので岩本、佐藤の兩馴染客が落ち合つたのは玉江身に取り甚だ難有迷惑に感じて居た所天佑なる哉岩本君の惡事露現の一條から何人にも出ずに濟み吉村を喜ばせることが出來たので爾來岩本君の寫眞を緣起棚に飾り込んで朝と晩には必ず聞き覺ねのお經の文句を一つ一つ拾ひ出して南無畜生頓生菩提タースケ玉へやナンマンノウのミコト一列すまして甘露臺、何卒御利益をタレ玉へと祈願疎ならざりしが白痴の一心貫徹せしものか或は岩本君に人知れぬ神通力のありしものか此頃に至り其効顯はれたること不思議なれと云ひたい事の顚末を記さんに扨も其時岩本君の惡辣手段にァンガイしたる佐藤君樓主が同縣人と云ふ所から若春樓に席を移し思ふ存分の遊興にコミ上げた癇癪玉を引き下して歸つたがゥク／＼考へて見ると岩本君にこそ罪はあれど玉江に何の罪があるものぞと吉村と云ふ情人に義理立てしたとは神ならぬ佐藤はん夢にも知らず寢物語りに聞いた身の上話を其儘ソックリ思ひ出し思へば／＼可哀相なものだ親の爲めとは云ひ乍ら淺間しい君傾城の浚勤め、アヽ思ひ出しても涙が零れると口先斗りか眞實に零れた涙と水ハナを橫撫にして早速玉江の許に駈け着け『お前さへ厭で無ければ』この甘い落籍の相談に玉江は空店の棚から牡丹餅の轉がり落ちた程に且つ驚き且つ喜び『左樣なつたら妾決して浮氣なんて爲や仕ません……イ、エ岩本さんなんか彼樣奴……』なんて勿体ない事を申すも一時の方便許させ玉へ岩本結ぶの神樣々と心の中で合せ居る手の佐藤君に見ゆる筈なければ心底見ねたと云ふことになり借金の四百圓をズバリ投げ出し髮結女を呼んで都一番の大丸髷元服姿の似合はしく車を連ねて金澤旅館の入舟の間の長火鉢の向ふへ座つて宿の女中に『奥樣お湯を召しませ』なんて云はれて納まつて居るが玉江は此も偏に岩本樣のお庇險なりと相變らず朝晩の二度宛人目を忍んで『岩本大明神樣々南無畜生頓生菩提』

總督府醫院內 回春園を觀る

金衣公子

曾つて寺內總督が總督府醫院參觀の砌り本館の背後一帶の地を回春園と命名せられたが更に之れを三分して東方に展開した高丘前に南山北嶽を眺め京城市街を一眸の下に收め得る風景絕佳の地を外園と稱へ西方松林の中小亭を設けたる閑靜の地を別園と呼び背後永福殿を圍む老松の蒼々たる地を內園と云ふ園內に特別病室が三棟新築された六疊四疊半溫突の三間よりなる瀟洒たる建物電燈あり構內電話あり頗る貴族的に出來あがつてゐる人跡絕ねて松吹く風の美妙なる樂を奏づる處閑寂幽邃出産前後の婦人山間に轉地を要する病人には無論のことヒステリカルな顏した奥樣煩悶病とか厭世病とかに罹つた數寄な人等に取つては好適なる靜養地である然し此の病室に這入らんと欲する者は一日五圓の金を支拂はねばならぬことを忘れてはならぬ。從來は醫院入院料の中に食費も含まれて居たので僅かに粥と鷄卵位で露命を繫いでゐる人でもャハリ同樣に規定の金額を否や應なしに取られたものだ相だが現今では入院料と食費とを區別し醫師の許す範圍で患者の好む食物を取ることが出來ることゝ確かに前に比しては改善されてゐるといふことに首肯が出來る。限なく見もし聽きもして辭し去らんとすれば既に夕陽暗雲の中に落ちて夜の色が潮の如くに身邊に迫つて來る北漢山颪し寒く勤務を了へて宿舍に歸るナースの白衣姿が蕭乎と薄闇い中に浮んである(終)

歲暮の贈答品(二)

……各商店主の談……

▲辻屋商店 官吏に對する贈答品を嚴禁するといふ總督府の嚴達は大打擊です歲暮の贈答品として上流には葡萄酒洋酒蓄音機中流にはブランデー、ウイスキー、シャツ五圓前後等で中以下には手巾(打一圓から三圓)ビスケット等です殊に商品切手は重寶なもので隨分よく出ます▲三越百貨店 弊店では上流向きとして七八圓前後の品シャツ毛布膝掛等で中流が五圓前後毛布帶揚げ肩掛シャツ中以下になると一圓から二三圓の半襟チクタイ手巾等です毎年の賣行きは男三分に女七分といふ割です▲龜屋商店 洋酒洋菓子膝掛毛布羽毛蒲團シャツ毛皮肩掛手巾沓下灰落等です手巾は一圓から六圓五十錢沓下が一打三圓から二十圓羽毛蒲團が八圓五十錢から五十圓毛シャツが組五圓から五十圓といつた樣なものです▲塚谷商店 手前共では舶來品が重で日本品を賣りますと新聞業ですから敵が多くなりますから困ります先づメリヤス類膝掛羽毛蒲團手巾と向き／＼によつて差別があります化粧品も全部舶來でして香水白粉石鹼等で價格が低廉なのでドシ／＼賣れます石鹼は四十八錢から三圓が一番出るクリスマスセットとして獨逸製の組立玩具が適して居ます價格は十七八錢で自働車とか飛行機種類も多くあります

社告

鳥兎匆々愈極月と相成本紙新年號準備の期も愈相近づき申候就ては本紙が此際愛讀各位に御願致度は本紙新年號に掲載すべき各位玉稿の御寄贈に候其玉稿の論文たると將た美文たると詩、歌、俳句情歌端歌たるとは各位の御隨意にして本紙は硬軟何れをも歡迎仕候

新年畫附錄

本紙新年附畫錄は本紙が特に邦畵の大家川端玉章翁に依囑して成りたる勅題松上鶴の祝畵にして其高尙優美なるは贅言を要せずと確信候

十二月 京城新報社

中味の違ふ宅正宗

▽レッテル丈が正銘 宅合名會社仁川支店發賣の宅正宗は總督府發布の飲食物取締規則により警務總監部衛生課に於て檢査の結果有害物フォルムアルデヒードの含有せるを發見され該酒六十七石五斗の發賣を禁止されたる爲警官出張五日午後七時より新聞社員立會の上全部流棄したり記者は同店に就き斯る不正酒を出したる內を訊したるに同支店醸造の宅正宗は既に七月中全部賣盡し現時は大阪堺の本店醸造のものを販賣しつゝあり本店に於ても自家醸造高一萬石弱に過ぎざるに販賣高は三萬石を超過しつゝあれば不足の二萬石は灘及び堺の醸造家に供給を仰ぎゾレに自家の商標を附し居たるものにて今回の不正酒は堺の福地麻五郎より買入れたるものにて從來の取引上福地を信用せし結果今日の失態を來たしたるものにて唯々顧客に對して其の罪を謝する外なし尙福地に對しては二千八百圓の損害賠償を提出し交涉中なり云々

賣買全部解合?

▽仁川米豆取引所の恐慌 仁川米豆取引所にては別項記載の如く仲買人笹目、倉重、中村、橋本の四名其筋に拘引されたるより他の仲買人にも何時不正行爲の嫌疑を以て拘引せらるゝものあるやも計られざるより疑惧の念を抱き戰々兢々たり爲めに從來の取引にかゝる十二月一月限の賣買は全部解合となし大改革を斷行せずんば尙從來の犯罪を繰返すに至るべしと理事者及仲買人等に於て協議中なり

仁川取引所 仲買人の拘引

▽不正行爲證據充分 仁川米豆取引所仲買人原籍山口縣平民當時仁川海岸町三丁目倉重悌輔(五二)同山口縣平民仁川海岸町三丁目中村嘉兵衛(三八)同奈良縣平民仁川海岸町三丁目笹目榮吉(四四)同大分縣平民仁川海岸町三丁目橋本彌三郎(四六)の四名は曩きに其筋の家宅捜索を受け取調中なりしは已報の如くなるが五日午後六時志水檢事の令狀を以て孰れも拘引されたり

藝妓の詐欺取財

▽但し證據は不充分 福岡縣人當時永樂町清華亭內藝妓仕込中なる山形たか(一九)は十月三十日藝稼業の契約にて永登浦の料理屋業寺井キクと四年間前借金二百圓にて抱へられしに僅か數日にして逃走したりとて前記寺井キクより告訴されしが南部署に於て取調の結果證據不充分として不起訴の意見付きにて一件記錄は檢事局に送られたり

二人男馬肉の祟

▽尻を百二十兩挨らる 五日午後五時頃西部川邊洞にて斃馬の肉を賣る鮮人あり引つ捕へて訊問すると此奴は盤松坊尾洞の吉聖七(四七)といひ同洞居住の白元西(四三)から買つたとのことに白を引致して取調べると馬主なる盤石坊溫水洞崔宗秀(三〇)より買ひ受けたりとのことに三人を引致し取調べの上各笞四十で放逐さる

土工職務に斃る

▽電柱に腦を衝ちて 住所不定咸興成(三四)は御成町道路擴張工事に人夫として從事中南大門より漢陽公園に登る道路に於て外三四名の人夫と共に荷車に土砂を積み御成町道路に運搬中坂道を降る際急勾配の爲め制動心に任せず梶棒を握りたる儘電柱に突き當り腦を衝ち即死したり

長唄嗜好會

入場無料 同會は來る八日午後六時より壽町壽座に於て左の番組に因り本年の納會を擧行する由なり

納會番組

長唄 高砂丹前 杵華亭 三春駒吉 きくや菊枝 三味線 清華亭若龍 芳村伊壽江

同 鞍馬

同 鶴龜 きくや文之助 三味線 芳村伊壽江 尺八 牛田

同 四季の眺 花若月 同勝龍 三味線 芳村伊壽江 桃太郎 利

同 秋の色草 井門助六 三味線 芳村孝十郎 芳村伊壽江 清華亭政菊

同 賤機帶 三味線 搦翠江戶奴 芳村伊壽江 きくや菊枝

同 松の緣 井門政子 三味線 搦翠壽美江 江戶奴

戻橋(常盤津) 芳村孝十郎 文之助 勝利 若龍 江戶奴

保名狂亂(淸元)

長唄 元祿花見踊 三味線 芳村伊壽江 春吉 菊枝 政菊 桃太郎

請負業者の恐喝

木請負業黑川組主黑川初次郎が兵庫縣人三木勉と新町遊廓萬遊樓の娼妓とに關する件に就て恐喝したるを六日其筋に探知され南部署に引致取調中

不渡手形を發行

香川縣人當時本町八丁目砂川三郎(三?)同大和町二丁目淺野伊和雄(二?)熊本縣人常時本町一丁目林久米藏(三〇)の三人は去る十一月十五日夜新町遊廓井門支店に登樓し遊興費二十二圓を商業銀行拂にて不渡手形を發行したるに不渡手形なりしを南部署佐藤長野岸の三刑事に探知され告發されたりと

●稿の財布に六圓餘 龍山魚商藤野玄三方雇鮮人金令福(二?)は五日午後五時頃川端町北陸館前井戶にて水汲み居りたる際釣瓶を井中に落し込みたるにより釣鉤にて之を拾ひ上げんとせしに縮緬の財布引懸り上り其內に金六圓二十四錢ありたるにより直ちに龍山署に拾得物を屆出でたり心當りの者は同署に申出づべし

●旦那を殺して吳れ 西部盤松坊尾洞酒商方漢輸(四?)の妾金平壤(二八)が六日午前四時頃最寄の派出所に飛び込み妾は本年二月より方と同棲し居る者なるが酒癖惡しく泥醉しては打擲するから一層の事方を殺して下さいと眞面目な顏して訴へ出でたれば方を呼び出し懇々說論

●子供を伴て家出 北部順化坊清風契三十七の三金勸植(三五)は九月二十一日妻の李姓女(三五)が五才になる長男を連れて姿を晦ましたれば大に驚き百方手を盡して行衛を探ねたれども更に判明せず五日悄然として搜査願を出す

●犯人無罪引受所 岐阜縣人當時京城若草町一丁目五十二番戶鎗山師山內鎌吉(三五)が本年三月檢擧されたる金佐鎭の强盜事件に關し判檢事辯護士に運動し無罪にしてやると稱し金三百餘圓を騙取したる事件は豫審終結し公判に付せらる

廓のうわさ

▲蔦家の雛子が愛嬌澤山勤め氣離れた取持ち振りに氣早の某氏が密と袖を引ひたのが運の盡き『オヤ、小林の旦那が宜いと申しましたか』▲濟水席よりゐはと名乘つて現はれた妓は昨年の十二月迄搦翠に花蝶と云つて居たのを去る人に落籍されしも都合ありて再勤仕つたのなり▲花家席の政吉は妹分の小萬、小奴、梅次を引き連れ獨立して出良家なる置家を開業▲菊家の菊枝は相變らず腕で繁昌▲開進亭の巴拔は大阪北の新地で鍛へた丈あり確なもの、上に氣前者の由にて人力車の自腹を切る▲同家の小廉キビ／＼した江戶前藝妓生れが大分とは受け取れず▲中券の獨立藝妓た可代は地は常磐津だが虎右衛門派の歌澤節が得意だと申せば南山町の惡たれ屋もセウ京城藝妓は相手にならん杯不埒の事は申すまじ▲木內長官に御贔負を受けて居た花月の花奴、が頃來病氣と號して歸鄉中なりしが今晩はつて▲此れも同じ樓の房江は過般何某に落籍され滿洲邊へ鍋提げて居たが此寒空に米を前に躊躇るのがックヽ厭になつたと見えて同じく逆戾つて『今晩はァ……エ、御飯を炊くより藝妓稼業ですよ』▲濟華亭の鶴は春駒と名乘つて同家より現はれた其半玉振りは美事なり▲淸水席の孃は肚俳藤田の寫眞を鏡臺に飾り夕笑つて居る所正氣の沙汰と思はれず▲搦翠樓の靜子再勤以來好成績を取り居り候さは芽出度し(鄙雀)

●諸公債諸株券 現物賣買、迅速確實に御取扱可申候 兼業 京城本町三丁目 大坂野村德七代理店 田中友吉商店 電話九九三 電略(ク)

せきずい病 即妙根治の良藥あり同病にて困難の方は彼是と迷事なく往復端書にて御照會あれ詳細を報す●播州明石町細工町● 高砂屋商店



代理店 京城南大門通三丁目 新井藥房 電話九〇四番 振替口座京城一〇六八十六番

本年二限リ 聯合賣出に加盟せず 十二月三十一日迄 弊店獨得の大割引 大賣出し 貳割引より色々 京城明治町一丁目 唐川呉服店 電話二六一一番 是非共乞御來店

たまちかねの 羊羹 しるこ 喫茶店 南山町二丁目 橘屋 電話六九三番

入院隨意 京城壽町三丁目(電話三七八番) 中島醫院 院長 醫學得業士 中島貞信

世界一の藥 かぜ 全國藥店にあり ねつ・はやりかぜ・づつう りうまちすに大効あり 蛇印 アンチピリン丸 藥價 五錢・十錢・十五錢・廿五錢 發賣本舗 大阪心齋橋筋二丁目 丹平商會 東京日本橋區通 丹平商會



ちゆうぶ 中風特効藥あり根治速かなり同病に御困難の御方は往復ハガキにて御照會あれ詳報す 播磨國明石町の内大明石町 石巻家 代理店 京城 新井藥房 電話九百四番 振替口座京城一〇六八十六番



朝鮮代理店 京城南大門通三丁目 新井藥房

木綿、太物 メリヤス 綿、文房具 紙、暖簾類 干物食料品 鑵詰、荒物 金物、洋傘 日鮮人向雜貨 帝國化粧品研究所 明月あらい粉代理店 卸商 朝鮮仁川港 コ 小林倉二郎商店 電話三六六番 振替口座京城一九九番

京城南山町二丁目 小倉齒修所 (伊藤組南に入る)

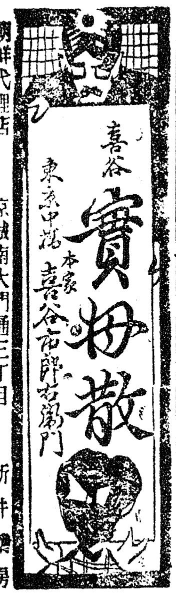
弊館には夜警の設備有り 旭屋旅館 電話二五一 仁川港岸 既製洋服卸小賣 諸官衙御用達 鐵道院指定旅館 陸軍指定旅館 御好の事 仁川水產組合指定旅館 第一各保險會社指定旅館なり 御客樣の安全此の上なし

特約店 醬油 醬油 ▲甘露醬油 ▲の清酢 ▲宇治銘茶 大日本麥酒株式會社 味噌醬油釀造元 諸漬物問屋 日用品一切 和洋酒類、和洋鑵詰 穀物麵類、乾物荒物 野菜果實、薪炭 其他 御贈答用進物品並に商品券調製仕候間御用命の程希上候 京城本町五丁目 電話二百五十一番 陸軍御用達 諸官衙 大上友太郎商店

商標 はなびらく・ぞうやく・りんびやう・きうけ(下)し ドクトリ丸 三包十錢、半週二十錢、一週四十錢、貳週七十六錢、三週一圓、五週一圓廿錢 ドクトリ丸は全國到る處の藥店に取次有御求の節は丁子の商標に御注意を乞 本舗 大阪四ツ橋西南詰南 本林丁子堂 代理店 京城南大門通三丁目電話九〇四番 一〇六八振替口座朝鮮十六番 新井藥房

文房具 和洋紙 測量器械 日本政府特許 度量衡器特許輸入販賣所 シノサキ本店 京城本町一丁目(郵便局前) 電話七百五番 電話長六四八番 振替口座朝鮮一五四番

建具製造販賣 ◎襖材料卸賣並ニ襖製造 ◎仕入レ建具類及ビ附屬品各種 ◎簟笥類各種 建具製造 襖材料卸 商 京城南大門外御成町 三好市太郎 電話五九六番 振替口座京城二九七番



朝鮮代理店 京城南大門通三丁目 新井藥房

牛馬 犬猫 治療所 入院隨意 京城明治町三丁目 院長 小川淺太郎 小川家畜醫院 (電話四二七番)

景品附京城聯合大賣出し

賣出期間 十二月一日ヨリ同月卅一日迄
抽籤場所 京城壽町 商業會議所
及同期日 明治四十五年一月七日
景品引換期間 自同年一月十日至同二十日
及ビ引換場所 毎日自午前九時至午後四時 京城日本人商業會議所內

景品總額七千二百圓也

▲景品目錄▼

內譯

壹等	金千六百圓	四拾圓宛	債券	四拾本 壹萬本ニ付壹本ノ割
貳等	金八百圓	貳拾圓宛	同上	四拾本 同上
參等	金六百圓	拾五圓宛	各店商品切手	四拾本 同上
四等	金貳百圓	五圓宛	同上	四拾本 同上
五等	金貳千圓	五十錢宛	同上	四千本 百本ニ付壹本ノ割

以下空籤ナシ

但シ買上金壹圓毎ニ壹枚(現金賣ニ限ル)

京城聯合繁榮會

事務所 京城日本人商業會議所內

加盟店ハ一定ノ旗灯燈ヲ目標ト御承知被下度候